

New Usability Design

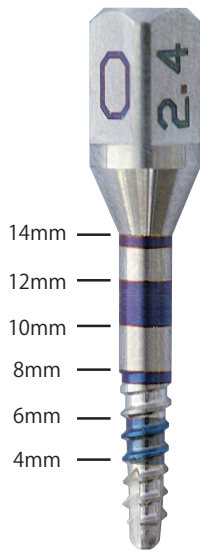
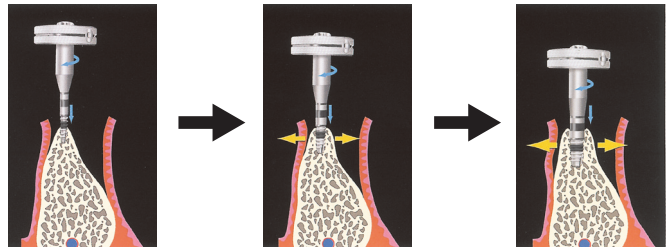
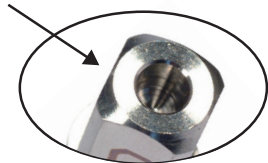
BONE SPREADER

ボーンスプレッダー

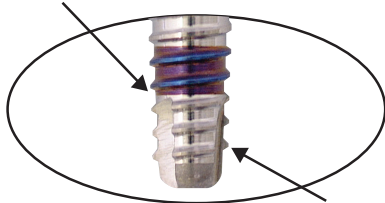
販売数
1,000本達成
リニューアル

歯槽堤拡大術において、既存骨を機械的に圧縮、拡大しインプラントを支持できるだけの骨幅を確保します。また骨質が脆弱なケースの場合は、ボーンスプレッダーを徐々に太くして使用することにより、インプラント床周囲の脆弱な骨を緻密化させ強い初期固定を得ることが可能です。

頭部にディンプル付与により推進安定性の向上。



・4.0mm からレーザーマーク付与

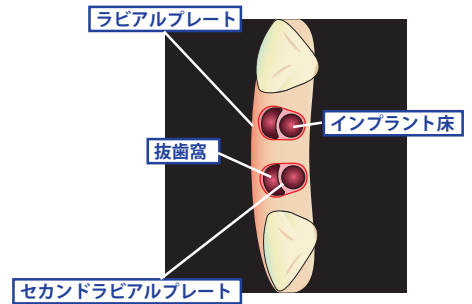
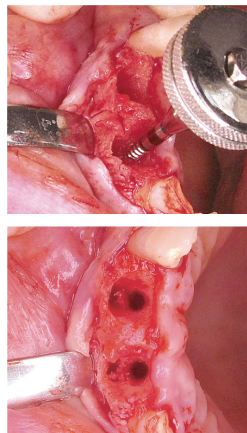


・セルフカッティングエッジの付与により推進力を向上。

セカンドラビアルプレート形成法

ボーンスプレッダーを応用したイミディエートインプラントプレースメント

審美的な部位において口蓋の骨をボーンスプレッダーにより唇側によせて、抜歯即時にインプラントをプレースメントするセカンドラビアルプレート形成にも有効です。



ボーンスプレッダー



¥8,500

3点セット



¥25,000

専用ケース

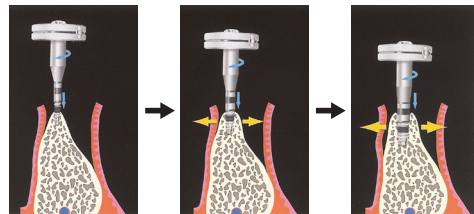


¥19,000

ボーンプレッターの概念

ボーンプレッターは、骨幅の狭い症例において、骨幅を拡大しながらインプラントを埋入するために使用します。また、DIII、DIVのポーラスな骨質をボーンコンデンスして緻密に改造していく利点もあります。

手順の概要としては、まずは狭い骨頂にラウンドバーやガイドドリルなどで起始点をつけ、ボーンプレッターをラウンドドライバーまたは、ラチェットにて回転させながら骨内に圧入し、骨を上げていきます。その後は、細いサイズから太いサイズへ順を追って移行し、削らずにインプラント床を形成します。



ボーンプレッターの応用

イミディエートインプラントプレースメント（セカンドラビアルプレート形成法）

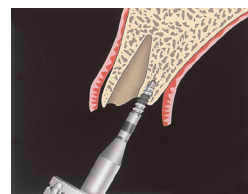
前歯部歯牙破折症例において骨吸収を最小限に抑えインプラントを審美的に成功させる術式の概要



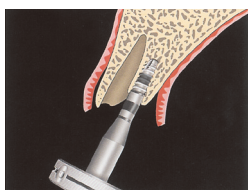
頬側・口蓋骨ともに傷付けないように注意して抜歯を行う。特に頬側の骨は薄い場合が多く（矢印）、注意を要する。



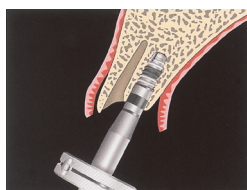
抜歯窩口蓋側内壁の骨頂より1.5～2.0mm内方にラウンドバーにて起始点をつけ、ガイドドリルにてパイロットホールを形成する。



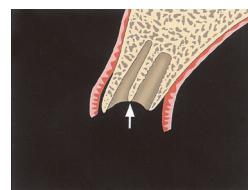
ボーンプレッターによって、骨幅を拡大しつつ、インプラント床の形成を行う。



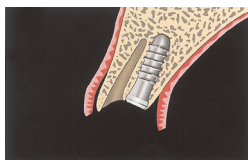
ボーンプレッターによる骨幅拡大。



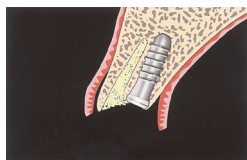
ボーンプレッターのサイズを徐々に拡大。



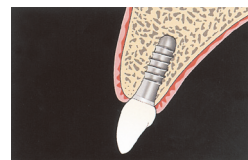
セカンドラビアルプレート（矢印）の形成。



インプラント埋入。



骨補填材の填入。



厚いラビアルプレートの確保。

協力：水口 稔之（歯学博士）

医療機器製造販売届出番号：20B1X00007000004